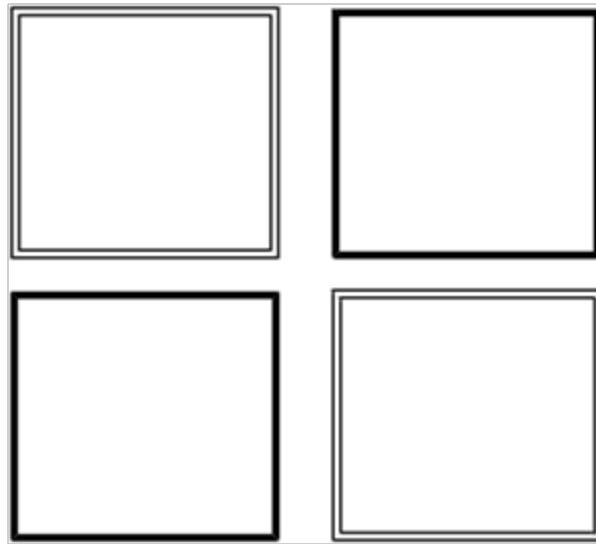


令和5年度年間指導計画 (2年生用シラバス)



富山県立高岡工芸高等学校

■ 目 次 ■

国 語	— — — — — — — — — — — — — — — —	1
地 歴 公 民	— — — — — — — — — — — — — — — —	3
数 学	— — — — — — — — — — — — — — — —	4
理 科	— — — — — — — — — — — — — — — —	5
保 健 体 育	— — — — — — — — — — — — — — — —	7

令和5年度年間指導計画（シラバス）

教科名	国語	科目名	現代の国語	教科書	新現代の国語	学年組	第2学年 21H～25H	単位数	2
年間目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 								

1学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲	
4	入門 言葉を声で表そう	・相手や場を意識して、効果などを考えながら言葉を使う。	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	中 間	
5	1 わかりあうために〈読む〉 「伝え合いに大事なことを考える」 「届く言葉、届かない言葉」 【コラム】「要約」と「要旨」	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取り、相手との伝え合いの中で自分が重視していることは何かを考え、周りの人と話し合う。 ・文章を読み、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨をまとめ、要約する。 			
6	2 確かな情報を伝えるために (話す・聞く)	<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりにある情報を収集・整理・検討する。 ・集めた情報をまとめ、自分の意見を述べたり、それを聞いて、同意したり、質問したり、反論したりする。 ・相手や場を意識して、構成や展開を工夫したスピーチを行う。 	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	期 末	
7	「情報はつくられる」 「ひとまず信じない」 「情報を編集し、的確に発表する」 —パブリックスピーチ—				
1 学期授業週数		12			

2学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
9	3 情報を生かすために〈書く〉 「人が死なない防災」 「減災学をつくる」 「評価した情報をまとめる」 —報告書—	<ul style="list-style-type: none"> ・「正常化の偏見」や「認知不協和」を理解し、災害情報が避難に結びつかない理由を整理する。 ・ハザードマップに問題点について筆者の考えを整理する。 ・ハザードマップから、相手と目的に沿って情報を取り出し、再構築し、報告書などに書きかえる。 	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	中 間
10	4 よりよい読み手になるために (読む) 「読むことのレッスン」 「水の東西」			

11	5 場に応じて伝えるために (話す・聞く) 「中身当てクイズ」	<ul style="list-style-type: none"> ・情報が不足している時でも、今ある情報をもとに仮説的に推論し、論証を積み上げていくことで、適切な結論を導ける可能性があることを知る。 ・意見広告と新聞記事の二つの文章を読み比べて、媒体による書き方の違いを分析し、相手や目的、場などにふさわしい文章の書き方について理解を深める。 ・聞き手を意識して原稿を作成し、構成や展開を意識してプレゼンテーションすることができる。 	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	期 末	
12	「読み比べる—海ガメの無念」 「構成や展開を意識して発表する—プレゼンテーション—」				
2 学期授業週数		15			

3学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
1	5 説得力を高めるために (書く)	<ul style="list-style-type: none"> ・引用の目的やはたらきについて理解する。 ・自分の心情を相手に伝えるための表現上の工夫を理解する。 	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	学 年 末
2	「折々のことば」 「宝探してみたいに本の世界へ入っていきます」			
3	「情報を整理して推薦する」 —ブックトーク原稿—	・読み手の理解が得られるよう、場や状況に応じて、文章の構成や展開を工夫してブックトーク原稿を作成する。		
3 学期授業週数		8	年間授業週数	35

◎評価の観点及び内容

知識・技能	言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する事項について、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

令和5年度年間指導計画（シラバス）

教科名	国語	科目名	現代の国語	教科書	新現代の国語	学年組	第2学年 26H・27H	単位数	3
年間目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 								

1学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲	
4	入門 言葉を声で表そう	・相手や場を意識して、効果などを考えながら言葉を使う。	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	中 間	
5	1 わかりあうために〈読む〉 「伝え合いに大事なことを考える」 「届く言葉、届かない言葉」 「わかりあえないことから」 「聞く力」	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取り、相手との伝え合いの中で自分が重視していることは何かを考え、周りの人と話し合う。 ・文章を読み、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨をまとめ、要約する。 ・二つの文章を読み比べ、コミュニケーションに対する筆者の考えや視点、その述べ方の違いなどについて考える。 			
6 7	2 確かな情報を伝えるために 〈話す・聞く〉 「情報はつくられる」 「ひとまず信じない」 「情報を編集し、的確に発表する」 「パブリックスピーチ」	<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりにある情報を収集・整理・検討する。 ・集めた情報をまとめて自分の意見を述べたり、それを聞いて同意したり、質問したり、反論したりする。 ・相手や場を意識して、構成や展開を工夫したスピーチを行う。 	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	期 末	
1 学期授業週数		12			

2学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
9	3 情報を生かすために〈書く〉 「人が死なない防災」 「減災学をつくる」 「評価した情報をまとめる」 「報告書」	<ul style="list-style-type: none"> ・「正常化の偏見」や「認知不協和」を理解し、災害情報が避難に結びつかない理由を整理する。 ・ハザードマップに問題点について筆者の考えを整理する。 ・ハザードマップから、相手と目的に沿って情報を取り出し、再構築し、報告書などに書きかえる。 	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	中 間
10	4 よりよい読み手になるために 〈読む〉 「読むことのレッスン」 「水の東西」 「コインは円形か」			

11	5 場に応じて伝えるために 〈話す・聞く〉 「中身当てクイズ」	<ul style="list-style-type: none"> ・情報が不足している時でも、今ある情報をもとに仮説的に推論し論証を積み上げていくことで、適切な結論を導ける可能性があることを知る。 ・意見広告と新聞記事の二つの文章を読み比べて、媒体による書き方の違いを分析し、相手や目的、場などにふさわしい文章の書き方について理解を深める。 ・聞き手を意識して原稿を作成し、構成や展開を意識してプレゼンテーションすることができる。 	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	期 末	
12	「読み比べる―海ガメの無念」 「構成や展開を意識して発表する―プレゼンテーション」				
2 学期授業週数		15			

3学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲	
1	6 説得力を高めるために 〈書く〉 「折々のことば」 「宝探してみたいに本の世界へ入っていきます」	<ul style="list-style-type: none"> ・引用の目的やはたらきについて理解する。 ・自分の心情を相手に伝えるための表現上の工夫を理解する。 ・読み手の理解が得られるよう、場や状況に応じて、文章の構成や展開を工夫してブックトーク原稿を作成する。 ・共通のテーマについて書かれた複数の文章から考えたことを、具体的な事例を用いて書く。 ・批評し合うことを通して、よりよい文章になるように推敲する。 	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	学 年 末	
2	「情報を整理して推薦する」 「ブックトーク原稿」				
3	8 よりよい書き手になるために 〈書く〉 「情報を活用して説得的に書く」 「小論文」 「書いた文章を批評し合う」 「推敲」				
3 学期授業週数		8	年間授業週数	35	

◎評価の観点及び内容

知識・技能	言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する事項について、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

令和5年度年間指導計画（シラバス）

教科名	地歴公民科	科目名	地理総合	教科書	高校生の地理総合 帝国書院	学年組	21～27H	単位数	2
年間目標	1 現代社会の地理的な諸課題を広く理解する。 2 現代社会の地理的認識を養い、地理的な見方考え方を養う。 3 国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。								

1学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
4	1部 1章 地図や地理情報システムと現代世界	①地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解する。 地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取る技能や、地図や地理情報システムを利用する技能を身につける。 ②各種の地図にはどのような特徴があるのかや、地図や地理情報システムはどのように利用できるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・ 考查後には、学習した内容の理解を確かなものにする。	授業への取り組み方、提出物および 考查の結果を総合的に判断する。	中 間
5	考查実施と学習内容の確認			
6	2章 結びつきを深める現代世界	①世界を構成する国家の領域の定め方や、地図を通して世界の国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴を理解する。 国家の領域や世界の国々の結びつき、交通、通信、人の移動の特徴を見いだすための、読図の技能を身につける。 ②国家の領域はどのように定められており、どのような領土問題があるのかや、世界の国々はどのように結びついており、どのような交通、通信、人の移動の特徴があるのかについて、地図を通して多面的・多角的に考察し、表現する。 ・ 評価後には、学習した内容の理解を確かなものにする。	授業への取り組み方、提出物および 考查の結果を総合的に判断する。	期 末
7	評価と学習内容の確認			
1学期授業週数		12		

2学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
9	2部 1章 生活文化の多様性と国際理解 (東アジア・東南アジア・中央アジア・西アジア・北アフリカ・南アフリカ・ヨーロッパ)	①世界の多様な生活文化が、自然環境や社会環境を背景に、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを理解する。 世界の生活文化の多様性の背景となるものや、世界の生活文化の相互関係を見いだすための、地理的見方・考え方を身につける。 ②地形や気候、産業とその発展、歴史、人の移動、他地域との結びつきに着目しながら、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・ 考查後には、学習した内容の理解を確かなものにする。	授業への取り組み方、提出物および 考查の結果を総合的に判断する。	中 間
10	考查実施と学習内容の確認			

11	2部 1章 生活文化の多様性と国際理解 (ロシア・アメリカ合衆国・ラテンアメリカ・オセアニア)	①世界の多様な生活文化が、自然環境や社会環境を背景に、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを理解する。 世界の生活文化の多様性の背景となるものや、世界の生活文化の相互関係を見いだすための、地理的見方・考え方を身につける。 ②地形や気候、産業とその発展、歴史、人の移動、他地域との結びつきに着目しながら、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ①地球的課題が生じている場所や要因、課題どうしが相互に関係し合っていることを理解する。 地球的課題が生じている場所や要因、課題どうしが相互に関係し合っていることを見いだすための、地理的見方・考え方を身につける。 ②地球的課題がどこで、どのように生じているのかや、解決のためにどのような取り組みがなされているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・ 評価後には、学習した内容の理解を確かなものにする。	授業への取り組み方、提出物および 考查の結果を総合的に判断する。	期 末
12	2章 地球的課題と国際協力			
評価と学習内容の確認				
2学期授業週数		15		

3学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
1	3部 1章 自然環境と防災	①自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにみられる防災・減災への取り組みを理解する。 自然災害が生じる場所や要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにみられる防災・減災への取り組みを見いだすための、地理的見方・考え方を身につける。 ②どのような自然災害がどのような場所で生じるのかや、日本の自然災害にはどのような特徴があるのか、どのような防災・減災への取り組みがなされているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ①生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたを理解する。 生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたについての技能を身につける。 ②事前調査の結果からどのような仮説が立てられるのかや、現地調査の結果をどのように分析・整理するのか、他の事例との比較からどのようなことがいえるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・ 評価後には、学習した内容の理解を確かなものにする。	授業への取り組み方、提出物および 考查の結果を総合的に判断する。	学 年 末
2				
3	2章 生活圏の調査と地域の展望			
評価と学習内容の確認				
3学期授業週数		8	年間授業週数	35

◎評価の観点及び内容

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 知識として学んだ、地理の基礎や基本的事項が身についているか。 自然地理を理解し、その知識を元に各地域の生活について考えることができたか。 国際社会に生きる日本人として、世界の地理を正しく理解できたか。 図表から必要事項を読み取ることができるか。 資料を活用し、導き出した過程や結果を適切に表現しているか。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 多くの学習内容を、自分なりに整理して考えようとしているか。 自分独自の視点で、様々な地理的作業を行っているか。 自然環境の違いにより人々の生活に違いがあることを理解し、判断しているか。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 地理の授業に際し、興味・関心を持ち、主体的・自主的に授業に参加しているか。 発問に対し、真摯な態度で考え積極的な姿勢を見せているか。 プリントの穴埋めや、ノートの整理・工夫に意欲的であるか。

令和5年度年間指導計画（シラバス）

教科名	数学	科目名	数学I	教科書	最新 数学I	学年組	2年 6～7組	単位数	2
年間目標	図形と計量、びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。								

1学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲	
4	第4章 図形と計量 第1節 三角比	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。	定期考査の成績、小テスト、プリントなどの提出物の内容などで総合的に評価する。	中 間	
5					
6	第1節 4. 三角比の拡張		定期考査の成績、小テスト、プリント、授業ノート、宿題ノートなどの提出物の内容、学習に対する意欲や授業態度などで総合的に評価する。	期 末	
7	第2節 正弦定理・余弦定理	図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力などを培う。			
1学期授業週数		12			

2学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
9	第2節 8. 三角形の面積		定期考査の成績、小テスト、プリントなどの提出物の内容などで総合的に評価する。	中 間
10	第5章 データの分析	データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力などを養う。		

11	第5章 3. データの散らばり	データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力などを養う。	定期考査の成績、小テスト、プリント、授業ノート、宿題ノートなどの提出物の内容、学習に対する意欲や授業態度などで総合的に評価する。	期 末	
12					
2学期授業週数		15			

3学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲	
1	数学A 集合と要素の個数 数え上げの原則	場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	定期考査の成績、小テスト、プリント、授業ノート、宿題ノートなどの提出物の内容、学習に対する意欲や授業態度などで総合的に評価する。	学 年 末	
2	数学Iの復習	数学Iの復習を行い、問題を解決する力を培う。			
3					
3学期授業週数		8	年間授業週数	35	

◎評価の観点及び内容

知識・技能	形と計量、データの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

令和5年度年間指導計画（シラバス）

教科名	理科	科目名	化学基礎	教科書	化学基礎 (実教出版)	学年組	21,22,23,24,25H	単位数	2
年間目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。								

1学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
4	序章 物質と化学 1章 物質の構成 1節 物質の探究 1 物質の分類と性質 2 物質と元素 3 物質の三態と熱運動	身のまわりの物質に着目し、我々の生活が物質に支えられていることを理解する。混合物と純物質の違いを理解し、自然界の物質の多くが混合物であることを理解する。また、混合物から目的の物質を分離するには、物質の性質にあわせた方法があることを知る。 元素の意味を知り、純物質のなりたちを理解する。 粒子の熱運動と温度および物質の三態変化との関係について理解する。	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。	中 間
5	2節 物質の構成粒子 1 原子の構造 2 イオンの生成 3 元素の周期表序章	原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解する。 同位体の定義とその性質を理解する。 陽イオン、陰イオンの生成のしくみを理解する。 元素の周期律および原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。		
6	2章 物質と化学結合 1節 イオン結合 1 イオン結合とイオン結晶 2 イオン結合からなる物質	陽イオンと陰イオン間の静電的引力によりイオン結合が形成されることを理解する。 イオン結晶の組成式のつくりかたやイオン結晶の性質を理解する。 分子中の原子の結合および分子の構造を表す方法を理解する。		
7	2節 共有結合と分子間力 1 共有結合と分子 2 分子間力と分子結晶 3 共有結合からなる物質	金属元素の結合と性質を理解する。また、種々の金属について理解する。それぞれの化学結合によってできた結晶について、その性質や構成粒子などを比較し、理解する。		
7	3節 金属結合 1 金属結合と金属結晶 2 金属 4節 化学結合と物質 1 結晶の分類 2 化学結合と身のまわりの物質	それぞれの化学結合でできた代表的な物質について理解する。		
1学期授業週数		12		

2学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
9	第3章 物質の変化 1節 物質と化学反応式 1 原子量と分子量・式量 2 物質質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式	非常に小さな質量の原子や分子の質量は、 ^{12}C を基準にした相対質量で表されることを知る。また、原子量は、同位体の各原子の相対質量の平均値であることを理解する。 原子量や分子量などに単位グラムをつけた質量中には、同数の原子や分子などが含まれることを理解させ、その具体的な数値が 6.0×10^{23} 個で、この粒子の集団を 1 mol ということを知る。 溶液の濃さを表す方法を学習し、質量パーセント濃度、モル濃度の計算を習得する。	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。	中 間
10		簡単な化学反応式とイオン反応式が書けるようになる。 化学反応式の係数比は、物質質量比(気体の場合には、さらに体積比)を表していることを理解し、化学反応式によって、反応物・生成物の質量・体積が求められることを理解する。		

11	2節 酸と塩基 1 酸と塩基 2 酸と塩基の分類 3 水素イオン濃度とpH 4 中和反応と塩	酸・塩基の定義を理解し、酸性・塩基性についても理解する。また、酸と塩基の価数と、酸と塩基の強弱とは、直接関係しないことを理解する。 水素イオン濃度とpHとの関係を知り、pHの値で、水溶液の酸性・塩基性の程度がわかることを理解する。 酸と塩基が反応するとたがいの性質を打ち消し、塩を生成することを理解し、また、塩の分類と塩の水溶液の液性を理解する。 H^+ と OH^- とが1:1で反応することを知り、また、中和滴定の計算を理解する。	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。	期 末
12				
2学期授業週数		15		

3学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
1	3節 酸化還元反応 1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元 4 酸化還元反応の応用	酸素、水素、電子の授受に基づく定義を理解する。とくに、酸化還元反応が電子の授受による反応であることを理解する。 酸化数の求め方、酸化数の変化と酸化・還元との関係を理解する。また、酸化剤・還元剤の定義を知り、両者の反応が酸化還元反応であること理解する。	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。身のまわりの生活と化学基礎で学んできたことを結び付け、化学が生活に役立っていることを理解する。	学 年 末
2		金属の酸化されやすさの尺度であるイオン化傾向について学習し、個々の金属のイオン化傾向と反応性の関係を探る。 日常生活や社会との関わりの例として、電池や金属の製錬を理解する。		
3	終章 科学技術と化学	化学基礎で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結びついていることを理解する。		
3学期授業週数		8	年間授業週数	35

◎評価の観点及び内容

知識・技能	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、化学に関する事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。
思考・判断・表現	自然界や産業界にある事物・現象の中に問題を見出し、化学的に探究する過程を通して、事象を科学的・論理的に考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度が養われている。 自然の原理・法則や科学技術と私たちの生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる化学に対する興味・関心を高めている。

令和5年度年間指導計画（シラバス）

教科名	理科	科目名	生物基礎	教科書	新編 生物基礎 (数研出版)	学年組	26, 27H	単位数	2
年間目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。								

1学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲	
4	第1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生物にも共通性があることを理解する。 多様な生物に共通性が見られる理由について理解する。 	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。	中	
	2節 エネルギーと代謝	<ul style="list-style-type: none"> 生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。 生命活動にはATPのエネルギーが利用されていることを理解する。 			
	5	3節 呼吸と光合成			<ul style="list-style-type: none"> 呼吸や光合成ではATPが合成されていることを理解する。 生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。
6	第2章 遺伝子とそのはたらき 1節 遺伝情報とDNA	<ul style="list-style-type: none"> DNAの構造を理解する。 DNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。	期	
	2節 遺伝情報の複製と分配	<ul style="list-style-type: none"> DNAが複製されるしくみを理解する。 体細胞分裂の過程でDNAが複製され、分配されることを理解する。 			
	7	3節 遺伝情報の発現			<ul style="list-style-type: none"> DNAの遺伝情報をもとにタンパク質が合成される過程を理解する。 からだを構成する細胞で遺伝子がどのように発現しているかを理解する。
1学期授業週数		12			

2学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
9	第3章 ヒトの体内環境の維持 1節 体内での情報伝達と調節	<ul style="list-style-type: none"> 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 自律神経系と内分泌系が、からだの状態を調節するしくみを理解する。 	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。	中
	10	2節 体内環境の維持のしくみ		
	3節 免疫のはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 私たちのからだを守る免疫のしくみを理解する。 免疫と、病気や治療法との関係について理解する。 		

11	第4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな植生とその特徴を理解する。 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因を理解する。 	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。	期 末	
	12	2節 植生の分布とバイオーム			<ul style="list-style-type: none"> 世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。 日本に分布するバイオームについて理解する。
2学期授業週数		15			

3学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
1	第4章 生物の多様性と生態系 3節 生態系と生物の多様性	<ul style="list-style-type: none"> 生態系がどのように構成されているのかを理解する。 生態系の中で、多様な生物がどのように関係して、存在しているのかを理解する。 	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。	学 年 末
	2	4節 生態系のバランスと保全		
3				
3学期授業週数		8	年間授業週数	35

◎評価の観点及び内容

知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。

令和5年度年間指導計画(シラバス)

教科名	保健	科目名	保健	教科書	現代高等保健体育	学年組	2年全	単位数	1
年間目標	個人の生活における健康・安全に関する理解をとおして、生涯を通じて自ら健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。								

1学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考查範囲	
4	1 ライフステージと健康	思春期に起こる心身の変化や思春期が生殖機能の成熟や自己の認識が深まる重要な時期であることを理解させ、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けさせる。	1 定期考査の成績、提出物、学習活動への参加の仕方や態度などで評価する。 2 学期全体の評価は、主に定期考査の成績40%、提出物30%、授業への参加の仕方や態度などで30%程度の配分で行います。	期 末	
5	2 思春期と健康				
5	3 性意識と性行動の選択				
6	4 妊娠・出産と健康				
6	5 避妊法と人工妊娠中絶				
7	6 結婚生活と健康				
7	6 結婚生活と健康				
1 学期授業週数		12			

2学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考查範囲	
9	7 中高年期と健康	加齢に伴う心身の変化と医療制度・サービスについて理解させる。また人間の健康は環境と深くかかわって成立しており、身体には環境に対する適応能力があること、空気・飲料水の衛生的管理や廃棄物の適切な処理が必要であることを科学的に理解させ、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けさせる。	1 定期考査の成績、提出物、学習活動への参加の仕方や態度などで評価する。 2 学期全体の評価は、主に定期考査の成績40%、提出物30%、授業への参加の仕方や態度などで30%程度の配分で行います。	期 末	
10	8 働くことと健康				
10	9 労働災害と健康				
11	10 健康的な健康生活				
11	1 大気汚染と健康				
12	2 水質汚濁・土壌汚染と健康				
12	3 水質汚濁・土壌汚染と健康				
12	4 ごみの処理と上下水道の整備				
2 学期授業週数		15			

3 学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考查範囲			
1	5 食品の安全	間の健康は環境と深くかかわって成立しており、身体には環境に対する適応能力があること、空気・飲料水の衛生的管理や廃棄物の適切な処理が必要であることを科学的に理解させ、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けさせ	1 定期考査の成績、提出物、学習活動への参加の仕方や態度などで評価する。 2 学期全体の評価は、主に定期考査の成績40%、提出物30%、授業への参加の仕方や態度などで30%程度の配分で行います。	期 末			
1	6 食品衛生にかかわる活動						
2	7 食品と環境の保健と私たち						
2	8 働くことと健康						
2	9 労働災害と健康						
3	10 健康的な職業生活						
3	11 健康に関する環境づくりと社会参加						
3 学期授業週数					8	年間授業週数	35

◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	自他の心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。
思考・判断・表現	自他の心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に考え、選択すべき行動を適切に判断している。
主体的に学習に取り組む態度	健康・安全の意義を理解するとともに、心身の機能の発達や心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

令和5年度年間指導計画（シラバス）

教科名	体育	科目名	体育	教科書	アクティブスポーツ 2022	学年組	2年全女子	単位数	2
年間目標	<p>(1)各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。</p> <p>(2)各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。</p> <p>(3)運動における競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。</p>								

1学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考查範囲	
4	体育理論 体づくり運動 集団行動	自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしの運動を中心に行わせる。 体力を高める運動も行い、体力の向上を目指させる。 また、自己の生活の中で計画的に実践していく資質や能力を身に付けさせる。走跳投の理想的な技術を理解し、実践をととして個人の記録向上を目指させる。 球技では、集団的技能や個人的技能を發揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを体験させる。	1 スポーツテストの記録、実施種目のスキルテスト(授業中に実施)、授業への参加の仕方や態度で評価する。 2 学期全体の評価は、主にスキルテスト40%、スポーツテスト記録30%、授業への参加の仕方や態度などで30%程度の配分で行う。		
5	陸上競技 スポーツテスト				
6	バスケットボール ソフトボール				
7	柔道 剣道 より1種目選択				
1学期授業週数		12			

2学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考查範囲	
9	体育理論 体づくり運動 集団行動	球技では、集団的技能や個人的技能を發揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを体験させる。 ダンスでは表現したい内容や動きを変化発展させ仲間と協力し、テーマにふさわしい作品づくりを工夫する楽しさや喜びを体験させる。	1 実施種目のスキルテスト(授業中に実施)、授業への参加の仕方や態度で評価する。 2 学期全体の評価は、主にスキルテスト60%、授業への参加の仕方や態度などで40%程度の配分で行う。		
10	バレーボール ビーチボール ソフトボールより				
11	柔道 剣道 ダンス				
12	より2種目選択				
2学期授業週数		15			

3学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考查範囲
1	体づくり運動 体育理論	ボールなどを用いて、集団的技能や個人的技能を發揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを味わいます。	1 実施種目のスキルテスト(授業中に実施)、授業への参加の仕方や態度で評価する。 2 学期全体の評価は、主にスキルテスト60%、授業への参加の仕方や態度などで40%程度の配分で行う。	
2	バドミントン バスケットボール			
3	柔道 剣道 より1種目選択			
3学期授業週数		8	年間授業週数	35

◎評価の観点及び内容

知識・技能	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、生活における運動の意義、体ほぐし・体力の意義及び運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動を合理的に行っている
思考・判断・表現	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組むことができるようにする。また、自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする中で、公正、協力、責任などの態度を身に付け、健康・安全に留意して運動を行おうとしている。

令和5年度年間指導計画（シラバス）

教科名	体育	科目名	体育	教科書	アクティブスポーツ 2022	学年組	2年全男子	単位数	2
年間目標	<p>(1)各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。</p> <p>(2)各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。</p> <p>(3)運動における競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。</p>								

1学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考查範囲			
4	体育理論 体づくり運動 集団行動	自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしの運動を中心に行わせる。 体力を高める運動も行い、体力の向上を目指させる。 また、自己の生活の中で計画的に実践していく資質や能力を身に付けさせる。走跳投の理想的な技術を理解し、実践をととして個人の記録向上を目指させる。 球技では、集団的技能や個人的技能を發揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを体験させる。	1 スポーツテストの記録、実施種目のスキルテスト(授業中に実施)、授業への参加の仕方や態度で評価する。 2 学期全体の評価は、主にスキルテスト40%、スポーツテスト記録30%、授業への参加の仕方や態度などで30%程度の配分で行う。				
5	陸上競技 スポーツテスト						
6	バスケットボール ソフトボール						
7	柔道 剣道 より1種目選択						
1学期授業週数					12		

2学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考查範囲
9	体育理論 体づくり運動 集団行動	球技では、集団的技能や個人的技能を發揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを体験させる。 ダンスでは表現したい内容や動きを変化発展させ仲間と協力し、テーマにふさわしい作品づくりを工夫する楽しさや喜びを体験させる。	1 実施種目のスキルテスト(授業中に実施)、授業への参加の仕方や態度で評価する。 2 学期全体の評価は、主にスキルテスト60%、授業への参加の仕方や態度などで40%程度の配分で行う。	
10	バレーボール ビーチボール ソフトボールより			
11	柔道 剣道 ダンス			
12	より2種目選択			
2学期授業週数				

3学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考查範囲
1	体づくり運動 体育理論	ボールなどを用いて、集団的技能や個人的技能を發揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを味わいます。	1 実施種目のスキルテスト(授業中に実施)、授業への参加の仕方や態度で評価する。 2 学期全体の評価は、主にスキルテスト60%、授業への参加の仕方や態度などで40%程度の配分で行う。	
2	バドミントン バスケットボール 柔道 剣道			
3	より1種目選択			
3学期授業週数		8	年間授業週数	35

◎評価の観点及び内容

知識・技能	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、生活における運動の意義、体ほぐし・体力の意義及び運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動を合理的に行っている
思考・判断・表現	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組むことができるようにする。また、自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする中で、公正、協力、責任などの態度を身に付け、健康・安全に留意して運動を行おうとしている。